69 ソバにおける茎の成長、開花、花房の形態および結実におよぼす日長の影響
道山弘康*・土本敬二・谷賢一郎・平野達也・林久喜1)・C.Campbell2)
(名城大学・1)筑波大学・2)Kade Research Ltd., Canada)

日本作物学会紀事
(Jpn. J. Crop Sci.)
73巻(別2号)
2004年

ソバにおいて主茎の伸長、開花、花房の形態および結実のさまざまな成長パラメータ
が日長時間の違いによっていかなる変化を示すかを明らかにし、それらの品種間差異
について明らかにした。

【材料と方法】普通ソバ夏型品種の「しなの夏そば」、秋型品種の「宮崎在来」、カナダの
Kade Research Ltd.に保有されている秋分け（DM花房）が多発し花房の長い系統である
「BLO1999」を、2003年8月28日に1/5000 a ワグナーポットに5粒ずつ播種した。白熱電球で
朝夕補光し、13、13.5、14、14.5、15、15.5、16時間の日長処理区および播種期の
13時間5分から日長時間が徐々に減少する自然日長区を設定した。

【結果と考察】日長時間が長くなると、主茎の伸長期が増加し、初花節が高くなった
開花始期が遅れ、咲き上がり速度が低下し、開花数が増加し、子実数が減り、結実率が
低下した。本研究ではDM花房が増加し、小花房数が増加し、花房が長くなることもわ
かった。これらは「BLO1999」だけでなく、
日本の品種「しなの夏そば」「宮崎在来」でも
同様であった。各パラメーターは日長時間の
違いに対する反応のしかたが異なったが、3
種のパターンがみられた。夏型と秋型の品種
間差異は1)主茎の伸長経過、2)初花節と開
花始期、3)咲き上がり速度、4)子実数と結
実率にみられたが、それらには4種のバター
ンがあった。